2013.11
No. 26

佐賀大学病院ニュース

患者・医師に選ばれる病院を目指して　News & View

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号　TEL 0952-31-6511(代)　病院ホームページ http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/

地域に密着した、近未来の高度医療機能病院を目指して　内藤　浩幸

多数傷病者発生を想定した災害訓練を実施しました　成澤　寛

地域に密着した、近未来の高度医療機能病院を目指して

再整備統轄監　内藤　浩幸

▲南診療棟

本院は、①「近未来・高度医療への対応」、②「地域医療への貢献」、③「教育・研究機能の強化」、④「病院管理・運営の効率化」、⑤「地球環境への配慮」の五つの基本理念に基づき、病院再整備中です。地域に根差した患者本位の「最後の砦」として、より一層地域医療に貢献し、高度医療への対応を確実に行うには、強固で安定した経営基盤の確立と総合的な医療環境の整備を行う必要があるため、平成29年度までの約5年余りの歳月を経て再整備を完了する予定です。

この度、平成24年度から25年度にかけて、新営工事を行った「南診療棟」、「北病棟」及び「診療支援棟」が完成致しました。新築したそれぞれの建物の外壁は、当初のえんじ色から先進性を表す外観として濁手の白磁色調のタイルを採用し、今後の改修工事により順次変更していく予定です。

「南診療棟」は、敷地外から正門を入って、最初に飛び込んでくる主要な建物であり、その南面は特に重要なファサードとなることから、太陽光発電により先進性を表現するとともに、水平ラインを強調し敷地に馴染む近代的なデザインとなっています。また、医療施設において極めて重要な機能的特性を持つ救命救急センター、集中治療部門、手術部門を配置することにより、高度な機能を持つ先進的な施設であると言えます。さらに、屋上にはヘリポートが設置されており、佐賀県ドクターヘリ事業の基地局として来年1月中旬には、本院の高度救命救急医療体制事業が開始される予定です。

「北病棟」の病室は、落ち着いた暖色系のクロスを採用しており、さわやかで温かく希望があふれ癒される環境となっています。また、南側の

▲南診療棟屋上ヘリポート

▲救命救急センター救急車専用入口

▲正面玄関

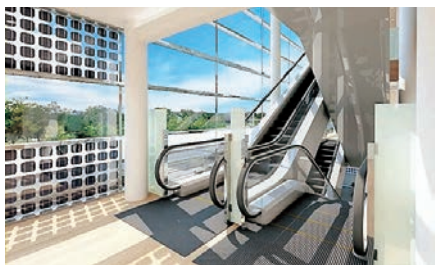
一般多床室には、間仕切り家具や無料で使用できる冷蔵庫を設置し、患者さんへのサービス向上やプライバシーに配慮した環境を整備しました。また、最終形では病棟北側部分にスタッフエリアを拡充することにより、職場環境の改善を図ります。

第4ステージの外来診療棟改修後には、現在の正面玄関を東側に移動し、院内画廊やチャットラウンジ等がある中央通路プロムナードから東西南北に位置する中央診療ゾーンや病棟ゾーンには片側に境界色を施し、ゾーニングの意識化と左右・南北の方向感を維持できます。また、南側には全面ガラス張りのアトリウムを増築して、3階までの吹き抜けやエスカレーターを新設し、自然な光が射し込む明るく開放的な外来となります。

本年、年末年始にかけて、いよいよ次ステージに向け、病棟等の移転作業を行うこととなりました。患者さんの移送については、本年12月30日を予定しており、当日は、東西病棟から北病棟へ、中央診療棟等から南診療棟へ順次患者さんの移送を予定しています。新棟への移転においては、患者さん等の安全な移動に細心の注意を払うとともに、病院機能を保ちつつ、先進医療機器等の移設が伴うこととなります。より一層慎重な作業が求められるため、検討に検討を重ね準備を進めています。

再整備に向け出港後、航海に出て間もない「豪華客船Saga University Hospital号」は、最初の寄港地である「第1ステージ港」の岸壁に寄せたばかりでありますが、今後、第2・3ステージの東西病棟・中央診療棟改修、さらには第4ステージの外来診療棟改修までの長い航海が続きます。

本年末の病棟移転を経て、「第2ステージ港」に向け、出港することとなりますが、患者さん及び職員の方々には、これまで以上のご理解、ご協力をお願いします。



▲外来アトリウム

多数傷病者発生を想定した災害訓練を実施しました

災害対策室長　成澤　寛

平成25年度から国立大学附属病院災害対策相互訪問事業が立ち上がり、災害対策に関して大学病院間での相互訪問を通して国立大学附属病院全体の災害対策に関する能力の底上げや標準化を図り、外部の視点が入ることによる防災意識の向上を目指すこととなりました。本院では、既に昨年から多数傷病者発生を想定した災害訓練を実施しており、本年も2段階での訓練を行いました。まずは、平成25年8月30日（金）にエマルゴ（災害訓練用セット）による机上訓練を行いました。実働訓練は、9月28日（土）、消防局の協力のもと、総勢250名（学内・院内参加者180名、学外参加者70名）が参加し、本院外来ロビー、総合外来付近を中心に実施しました。実働訓練の目的は、多数傷病者発生時における各種緊急活動の習熟、および消防機関との連携の促進を図ることです。具体的には、平日午前9時頃、長崎自動車道金立SA付近で、高速バスと大型トラックが衝突、炎上し多数傷病者が発生、8名の重症者を含む28名の負傷者が本院へ搬送されるという想定で行いました。机上訓練時の課題となった院内の指揮調整系統および連絡方法の確立の検証を行い、併せて検査部、放射線部、手術部の受け入れ体制の確立、患者受け入れから入院または手術までの流れの確認を行いました。また今回は、福岡医健専門学校から37名の学生の派遣協力をいただきました。トラウマメイクを施した模擬患者による迫真の演技は、参加者への災害対応の臨場感をうみ出し、本番さながらの訓練となりました。終了後の初回参加者からは「貴重な経験となった」、昨年の経験者からは「前回の課題が改善している」等の感想が寄せられました。一方で新しい問題や未対応の課題が残されていることも明らかになり、非常に実りの多い訓練となりました。前日からある程度の準備を行っていたにも関わらず大変な訓練でしたが、実際の災害発生時にはシナリオがなく、改めて訓練の重要性を痛感しました。

就任挨拶

臨床検査医学講座
教授　末岡榮三朗

平成25年8月1日付けで、医学部臨床検査医学講座の教授に就任いたしました、末岡榮三朗です。昭和59年、佐賀医科大学の1期生として卒業後は、血液内科医として臨床と研究に携わってきました。平成22年10月から本院の検査部長として検査部業務を担当させていただき、大学病院としての検査部の在り方を研究してきました。

最近の医療技術の進歩は目覚ましく、臨床検査医学の分野にも最先端の工学、IT技術が応用されています。私の今後の活動目標の一つは、「いろいろな分野の先進技術の導入による、患者さんにやさしく省コストの検査体制を作る」ことにあります。もう一つの目標が「生体情報の有効活用のための組織作り」です。検査部門は患者さんの大切な検体を預かって検査を行っていますが、医学研究においては様々な臨床情報や検体の活用が必要となってきます。預かった検体から得られた情報を、「患者さんのために、患者さん個人に合った形で提供する」、そんな組織を作りたいと思っています。みなさんのご指導をいただきながら頑張っていきたいと思いますのでなにとぞよろしくお願いいたします。

診療科紹介

先進総合機能回復センター

診療教授　浅見　豊子

先進総合機能回復センターは、平成22年6月の組織替えにより新しくなったリハビリテーション（リハ）医療体制です。現在、センター長1名、副センター長3名の他、専従スタッフとして、医師3名、理学療法士13名、作業療法士5名、言語聴覚士3名により構成されています。さらに、佐賀県高次脳機能障害拠点機関の指定を受けており支援コーディネーターも1名配置されています。

外来診察は平日の午前中、リハ治療は平日と月2回の土曜日に行っています。疾患は、脳血管等疾患（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、脳腫瘍、もやもや病など）、神経筋疾患（パーキンソン病、多発性硬化症、筋委縮性側索硬化症など）、骨関節疾患（変形性関節症、骨折、脊椎疾患など）、呼吸・循環器疾患、嚥下障害、悪性腫瘍、廃用症候群、高次脳機能障害、小児疾患、切断など多岐にわたっています。そのために各診療科との合同カンファレンスも多く、心リハチーム、呼吸リハチーム、栄養サポートチーム、糖尿病チーム、緩和ケアチーム、消化器外科チーム、福祉用具・住宅相談チームなどの一員として各カンファレンスにも参加していますが、毎週木曜日の17時15分より行っているリハカンファレンスが、リハスタッフ全員に加え病棟看護師や心理療法士、医療ソーシャルワーカーの参加も得た、主たるリハ治療症例の検討の場となっています。さらに、毎週金曜日7時30分よりの脳卒中カンファレンスにも多くのスタッフが参加し、引き続き行われる各診療科講師担当者による勉強会では情報収集や意見交換を行っています。

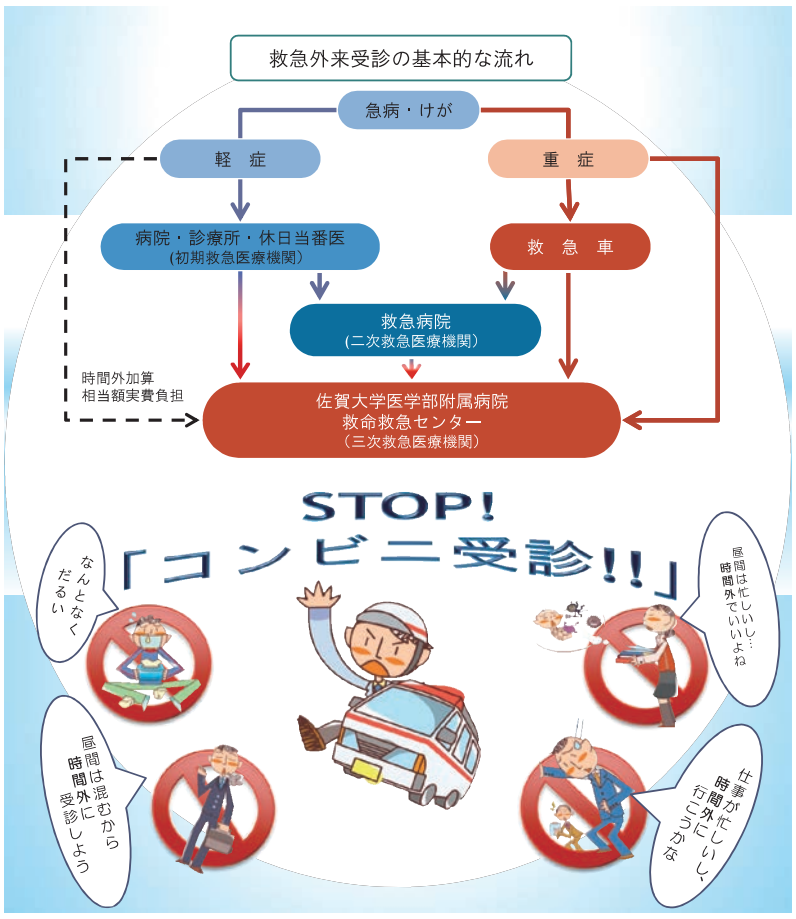
入院リハが中心ですが、先進的リハ領域あるいは特殊リハ領域に対しては外来リハも行っています。たとえば、HALやホンダアシストを使用したロボティクスリハや筋電義手訓練、ボツリヌス療法、磁気刺激療法、高次脳機能障害支援、車いすや自宅改修を含めた環境調整支援などがそれにあたります。

◀HALを使用したロボティクスリハ

来年の病院再整備によるリハ施設の新築移転に伴い、スタッフの増員を行い、がんリハを開始する事などが計画されていますので、さらなる充実を目指してより努力していきたいと思っています。

救命救急センターからのお願い

★★本院は休日・夜間診療所ではありません
★救命措置・入院が必要な患者さんを優先します
※症状に合わせた医療機関を選択していただきますようお願いいたします。



佐賀大学医学部附属病院連携病院長会議

地域連携室長　木村　晋也

平成25年7月27日（土）に、四季彩ホテル千代田館において佐賀大学医学部附属病院連携病院長会議が行われました。本会議の目的は、より良い地域連携を構築していくために、各病院の病院長にご参加頂き、討議を行うことであります。参加人数は、連携各病院・医院より51名、本院より58名、合計109名でありました。まず本院の宮崎病院長の挨拶で始まり、次いで地域連携室長である木村が、本院の地域連携室の活動状況について報告しました。そして本院医療ソーシャルワーカー江口が「医療連携の推進に向けて」という内容で新たな取り組みについて発表しました。これらの報告を受け、各参加者から多くの質問や意見を頂きました。特に、「大学病院は、医師の外来当番表の更新が遅い」という貴重なご意見がありました。大学病院は医師の異動が頻繁であり、これまでの更新状況では正確な情報を発信できていないと反省しました。本会議以後、毎月外来当番表を更新するように改善いたしました。意見交換の後、本院の医師・職員によって「2025年へ向けた地域完結型医療と病院経営」「連携パスをもっと身近なものに。ツールを活用しよう」「佐賀大学医学部附属病院専門・認定看護師によるスキルアップ研修会のご案内」の3題について、寸劇なども交え情報発信を行いました。盛会のなか、後藤副病院長の挨拶で閉会しました。

「院内緑化推進プロジェクト」

エコロジーガーデンの継続設置について

経営管理課

本院では、高度で安心、安全な医療を患者さんに提供するという医療の使命と同時に患者さんの療養環境を向上させ、「癒やし」や「安らぎ」を与える「心の医療」にも取り組んできました。

その方策の一つとして、平成21年10月から病院ロビーに生命力にあふれる緑多い植物を配置したエコロジーガーデンを設置し、皆様から好評を得てきたところです。

なお、この設置にあたっての財源につきましては、各企業様からのご協賛金によるものであり、今回も多数のご協賛をいただきましたことで、その継続が可能となりましたが、ご賛同いただきました皆様にはこの紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

また、この院内緑化計画及び協賛活動は、今後も引き続き実施していくこととしておりますが、設置内容等の更なる充実を図ることからも皆様方のなお一層のご支援をよろしくお願いいたします。

ご協賛いただいた企業様名

（順不同）

一般財団法人栄仁会
東島電気工事株式会社
西部電業株式会社
株式会社佐電工
富士通株式会社
株式会社古川総合印刷
ワタキューセイモア株式会社九州支社
西部特機工業株式会社
松屋株式会社
株式会社大島産業
有限会社深川電気
株式会社本田設備
株式会社やまと
株式会社マベック
峯松商店
千代田計装株式会社
株式会社コアズ佐賀営業所
三和通信工業株式会社
株式会社竹中工務店
ホテルニューオータニ佐賀
株式会社パースジャパン
フジテック株式会社
その他（匿名希望）

文化コーナー

第10回文化コーナーにもたくさんのご応募をいただき、誠にありがとうございました。

今回掲載されている優秀作品に選ばれた方々には、賞品としてカッチーくんグッズを贈呈いたします。また、病院ホームページや外来ロビー等に全作品を掲示しておりますので、是非ご覧ください。

文化コーナー担当　南里　悠介

俳句（（社）日本伝統俳句協会会員「玉藻」同人　木下みね子・万沙羅　選）

- 分け合うて　すいか味はふ　家族愛　小林　禮子さん
- 山里に　落ち穂さがすか　鷺の二羽　江口八重子さん
- 七輪や　牡蠣の数だけ　笑顔あり　鍋島の龍馬さん

川柳（佐賀大学医学部附属病院広報委員会　選）

- 手術前　主治医の来診　励まさる　小林　禮子さん
- なにもない　何もないけど　ここちよい　西牟田　勲さん
- 最新の　医療機われを　包みこみ　任せておけよと　励ましくれる　飯盛　美紀さん
- 面会と　言う名の種が　降り注ぎ　笑顔と勇気の　花が咲く　匿名希望

▲「パンダオーケストラ」院内学級の児童生徒による共同作品